

2023年 新政クラブ視察報告書

みなべ町「TUNAGU プロジェクト」

[視察項目]

和歌山県みなべ町

一次産業ワーケーション活用による農漁村と地域の関わり人口創出事業

「TUNAGU プロジェクト」について

[報告者]

倉田 孝浩

[訪問日時]

令和5年11月7日(火)

午後2時から午後4時

[訪問場所]

和歌山県日高郡みなべ町役場



[対応者](敬称略)

みなべ町議会議員議長 原田 覚

みなべ町うめ課課長 平 喜之

みなべ町うめ課主幹 木田 勝紀

みなべ町議会事務局長 谷本 忠広

[視察目的]

一次産業ワーケーション活用による、都会で働く人と地域をつなぐ、農山漁村と地域の関わり人口創出事業「TUNAGU プロジェクト」の視察を行いました。

[みなべ町の概要]

みなべ町は紀伊半島の南西部、和歌山県の海岸線のほぼ中央に位置します。日高郡に属し紀南地域の中心都市の田辺市に隣接しています。

総面積は120.28平方キロメートルで、その約68%を林野面積が占めます。また農地の割合が比較的高く2割程度を占めています。

紀州灘を臨み東西に流れる南部川の流域には、丘陵地が広がっており、低地あり

山間地域ありとバラエティに富んだ地勢です。丘陵地に広がる梅林は「南部梅林」と呼ばれ、日本一のブランドを誇る「南高梅(なんこううめ)」の栽培が行われています。

山間部は森林、溪谷などの自然資源に恵まれ、江戸時代からの湯治場とされる「鶴の湯温泉」があります。また、炭の最高級品である「紀州備長炭」の生産が盛んで、備長炭の里としても有名です。

「千里の浜」などからなる海岸部は、風光明媚な景観を誇り、「国民宿舎紀州路みなべ」などの温泉施設があります。海釣りをはじめとした海洋レジャーや漁業も盛んで、「千里の浜」は貴重な自然資源であるウミガメの産卵地として有名です。ウミガメの上陸、産卵数は本州随一で、産卵シーズンには多くの観察者が訪れます。

[視察内容]

みなべ町は全国の梅収穫量の約30%をしめる日本一の梅の里です。

人口の約7割が梅にかかわっているため、梅に関する消費拡大、生産安定対策、観光振興などを目的に、役場の「うめ課」は設立50周年を迎えます。

人口約12,000人の町で、江戸時代から400年以上続く「みなべ田辺の梅システム」が、平成27年12月に世界農業遺産として認定されています。

日本一の南高梅の産地としての梅収穫ワーケーションを通し、ワーケーションと一次産業を強力に連携させようとしています。その背景には、ワーケーションが日本の未来を前向きに変える可能性を有する新しい働き方であり、企業・地域双方で、ワークとバケーションの両方ができる「真のワーケーション」の促進を行い、研修参加者のみならず、受け入れ地域を含む事業関係者のウェルビーイング向上による経済的効果を期待していることがあります。「TUNAGUプロジェクト」では、地域の持続可能な発展を促進すると共に、地域の人々が協力して農産物の生産や加工販売、観光施設の運営、地域の特産品のPR活動をしなが、農業や観光、地域資源の活用する事業を展開しています。

また地域の人々の意見やアイデアを集めるためのワークショップやイベントも開催され、地域の課題やニーズに対応した取り組みが行われることで、地域の活性化や地域住民の生活の向上を図ることを目指しています。



TUNAGUプロジェクトは、地域の人々が主体となって進められており、地域資源の活用や地域の魅力の発信を通じて、地域の活性化と経済の発展を目指す取り組みです。

[所感]

みなべ町の様に館山市では日本一と呼ばれるものはありませんが、館山市の資源や特産品・観光資源などを最大限に活かし、地域の人々の参加や協力を得ながら、地域の課題や特性に合わせた、持続可能な発展を、地域の人々や関係機関と綿密にコミュニケーションを図り、協力体制を築きながら、館山市でも取り組みたいプロジェクトだと感じました。

